

かとうせきかいらんぼん 可動堰回覧板

平成21年12月1日号 (No.53)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所大河津出張所
TEL 0256-97-2121
E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

回覧

可動堰改築事業の現場に働く方々などについて紹介します。

可動堰本体工事のちょっといい話

大成・東急・岩田地崎 特定建設工事共同企業体 現場代理人 渡邊 耕一

現在進められている可動堰本体工事は、私たちの企業体が平成18年3月に受注して、始まりました。これまでにできあがった範囲は、6基の鉄製の巨大なゲートを支える7本のコンクリート柱のうち5本、左岸(上流から見て左側)の魚の通り道となる魚道、下流の分水路につながる取付擁壁、これらを取り囲む上流と下流の水叩きや川底が深く掘れてしまうことを防ぐ護床工です。

ここでは、実際に工事現場で働く人々や使っている機械、材料、これまでに見学していただいた方々を紹介します。

工事現場で働く人々

堤防で囲まれた川のなかの工事は、台風や集中豪雨などで川を流れる水の量が多くなる可能性のある時期を避けた、毎年10月から翌年の6月までを作業ができる期間として始まりました。皆さんも平成18年7月の出水で、堤防のなかにある田んぼがしばらく水浸しになったことを覚えているかもしれません。その頃の現場はまだ夏のお休みの時期だったのですが、場内が水浸しになってしまい、10月の工事再開時には現場の中の大量に溜まった泥土を取り除く作業から始めることになりました。このように、川の中の工事では、どのような出水にも対応し、できるだけ被災しないように注意深く進める必要があります。同時に、現場で働く多くの人々の生命も守っていただくだけでなく、快適に働ける環境を造る努力もしなければいけません。言い換えれば、私たち企業体の職員だけでなく工事に関係する人々すべてが、よく頭を働かせ実際に体を動かし、一体となつてものを作り上げることが工事完成に一番大切なことです。では、この現場で現在働く人たち

はどこから来ているのでしょうか？その多くは、燕市、長岡市、そして新潟県内の様々な場所から毎日通ってきています。工事開始以来、平成21年10月現在までに、延べ32,000名(全体の50%)の新潟県在住の人々の力が結集してここまでできました。皆さんの知っている職種として、大工さん、鉄筋屋さん、鍛冶屋さん、鳶さん、土工さん、ダンプトラックや油圧ショベル・クレーンの運転手さん、測量屋さん・・・、数えたらきりが無い位、多くのひとが係わった現場となっています。



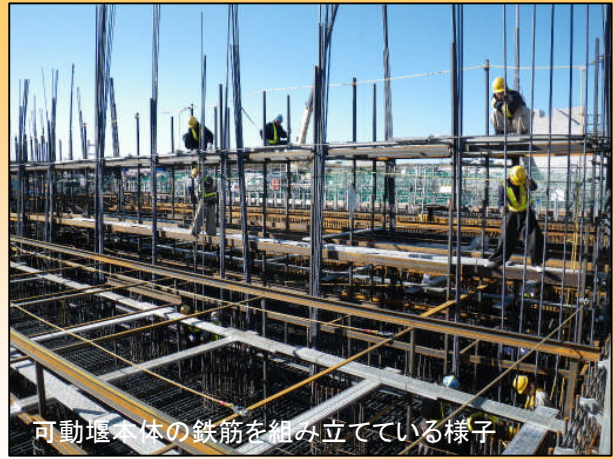
可動堰改築工事現場で働く人たち

(午後からの作業について安全確認)

工事現場で使う機械・材料

最近現場でよく使う機械は、材料を吊り上げて使う場所まで移動させるクレーンやコンクリートを運ぶトラックミキサー車、それを流し込むコンクリートポンプ車、土砂を掘る油圧ショベル、それを運ぶダンプトラックが主役です。最近では、クレーンが5台(最大50トンの物を吊り上げられる)やコンクリートポンプ車が5台も来て、朝から晩まで作業しています。また、小さい機械では、電気を起こす発電機、暗くなるのが早いので必要になる照明設備、現場の溜まり水を汲み上げるポンプなど、様々な機械の力を借りて作業が進んでいます。

一方、最近のよく使う材料は、コンクリートと鉄筋です。コンクリートは、セメント、砂、砂利、水、その他の材料を練り混ぜて造りますが、新潟県糸魚川（青海）の山から切り出した石灰岩を細かく砕いた後に焼いて造ったセメントや、信濃川の川底から掘り上げた砂も材料として使っています。これらの材料を生コン工場に運び込み、2.0m³級（ドラム缶10本分）の電動ミキサーで均等に練り混ぜて、所定の品質になった生コンクリートを使います。また、生コンクリートと一体となって強い構造物を形成する鉄筋（鋼鉄製の棒）は、長岡市内の工場で製造され順次現場へ運び込んで組み立てています。



可動堰本体の鉄筋を組み立てている様子

工事現場を見てくれた方々

私たちが働く本体工事の様子は、遠くからでは、国道116号大河津橋や左右岸の堤防の上から、それと大河津資料館の4F展望室からも見る事が出来ます。

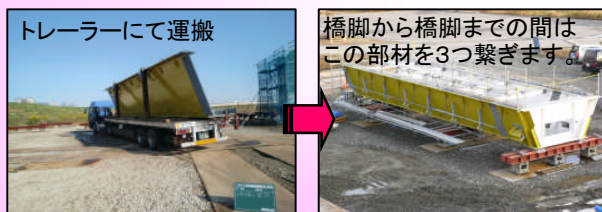
しかし、実際にもっと詳しく中を見たいと希望される方には、ヘルメットをかぶって個別に場内をご案内もしています。例えば、旧分水町、寺泊町、与板町、和島村など近隣在住の方々や、新潟市内の方々などのほか、遠くは東京都、石川県、大阪府などからも見学者がありました。これからも、適時対応できますので、お気軽に声を掛けていただくようお願いいたします。このように、工事開始から多くの地元の方々と係わってきました本体工事は、平成23年度の完成を目指して、これからも一歩ずつ確実に前進していきますので、皆様の暖かいご支援を宜しくお願いいたします。



可動堰本体工事現場より虹が見えました

可動堰本体工事 管理橋（上部）架設状況

可動堰改築工事現場では、橋脚（管理橋下部）に架ける管理橋（上部）を工場からトレーラーにて運搬し、現地にて組立てて左岸側から架けていきます。



トレーラーにて運搬

橋脚から橋脚までの間は
この部材を3つ繋ぎます。



平成21年10月26日撮影

P1
橋脚

P2
橋脚

S1
堰柱

下流

左岸堤防

上流

大河津可動堰情報館ホームページから、毎月1日には可動堰回覧板の最新号をご覧頂けます。また、バックナンバーも合わせてご覧頂けます。アドレスは「<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeiki/>」です。

『可動堰なんでも電話』を開設し、みなさんからのご意見・ご質問などをお待ちしております。
0258-32-3134（平日 AM9:00～PM4:00）

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121（建設監督官在所）
大河津出張所 : 大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等
建設監督官（可動堰改築担当）: 大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

大河津可動堰情報館

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeiki/>

信濃川大河津資料館

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/index.html>